

# 橋や道路を災害に強く

防災・減災に力を注ぐ公明党は、コンクリートの寿命年数を迎える、橋や道路などの整備を推進するため、活発に調査活動を展開。このうち、愛知・三重・静岡・長野の各県での取り組みを紹介する。

## 公明 各地で提言・調査

### 老朽化の名古屋高速で

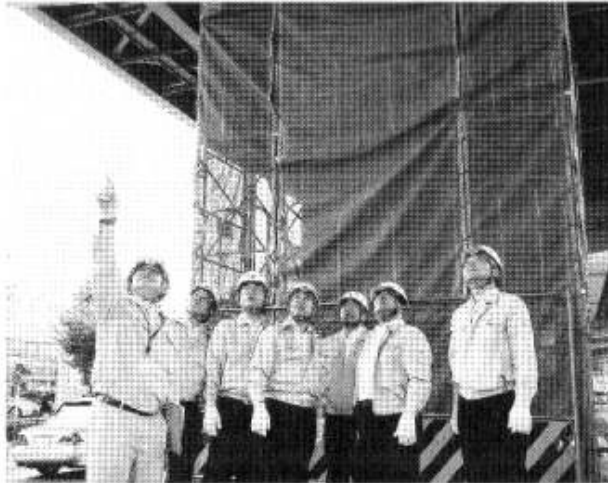
### 党県議団が補修現場を視察

愛知県

災害に強い街づくりの実現をめざす公明党愛知県議団(木藤俊郎 団長)はこのほど、名古屋市と周辺地域に路線が整備されている名古屋高速道路の補強・補修工事の実情を探るため、「名古屋高速道路公社」(名古屋北

区)を訪れ、関係者から保全業務などについての説明を受けるとともに、同高速道路大高線の補修工事現場を視察した。

ら聞いた。  
名古屋高速道路ではこれまでに、橋脚の耐震補強や、非常階段(33カ所)、地震計(6カ所)、自家発電設備(7カ所)を設置するなど震災対策の措置が講じられている。木藤団長は「防災・減災への取り組みとして、高速道路の耐震化は重要な施策の一つであり、さらなる調査・点検を行いたい」と述べた。



名古屋高速道路の補修現場を視察する  
党県議団(右側6人)

補修工事区間(高架道路)は、建設後約30年が経過し、コンクリート部分にはひび割れが見られるなど、老朽化が進んでいる。このため、回工事では、①劣化部分の除去②特殊なセメントによる断面の修復③はく落防止シート④保護塗装を行う。

視察した同県議団は、補修の進捗状況や道路の維持管理に欠かせない点検の重要性などについて、作業員か